

# 中尾小だより

〒336-0932 さいたま市緑区中尾 2596-1

HP <http://nakao-e.saitama-city.ed.jp> TEL: 048-873-0216 FAX: 048-810-1120

学校教育目標  
知・徳・体の調和のとれた  
心豊かな人の育成

## 「自分の言葉」で表現できる子を育てる

校長 田口幸久

いよいよ11月。秋の深まりと共に、中尾っ子の学びも深めていきたい月です。

友達と話し合いながら自分の考えをつくっていく、教室はそのような場でもあります。各教室をのぞくと、活発な話し合いをしている場面に出会うことがあります。「僕は～と思います。その理由は～だからです」「私は～と思いますが、〇〇さんはどう考えますか」発達段階によって、発言の仕方は様々ですが、自分の考えを理由を付けてしっかり伝えている子が増えてきたことは嬉しいことです。始めは上手に意見が言えなくても、基本を教え、話し合いを経験させることによって、少しずつですが「自分の言葉」で表現できるようになっています。

かつてオランダの日本人学校にいた時、現地の学校やサッカーのクラブチームと交流する機会が何度かありました。現地の子どもたちが一つの考えに対して、あまりにも個々の考えを堂々と主張することが多いのに驚かされました。それは先生やコーチに対しても同じでした。

「私がこう考えたのは、こういう理由だからです」「僕はこう考えたから、そこにパスを出したんだ・・・」大人は、子どもが自分で考えた意見は大いに褒める。たとえ失敗しても決して責めず、むしろ考えの根拠を「自分の言葉」で言わせていたのが印象的でした。多くの人種を積極的に受け入れている国だからこそ、様々な考え方や主張がある一方で、それが成り立っているのは、様々な考えを受容する寛容さであったり、自分の行動にはしっかりと責任を取らせる自律性であったりと、そのような姿勢を子どもの頃から大切にしているのだと感じました。

「みんながつくる みんなの学校」を合言葉に、全国で講演活動を行っている元小学校長の木村泰子先生は、「学校は自分をつくる場所」だと次のように述べています。『自分の言葉で自分の考えを述べる』その根底には、『いろいろな考え方があがる』ということを経験しなくてはなりません。いろいろな人がいるから、自分が磨かれているのです。もし、教室で大声をあげてしまう人がいた時に『うるさいな、あっち行けよ』と排除してしまえば、何も成長がありません。でも、『騒がしくても、集中できるようになろう』と思えば、自分をつくることになります。そして、自分と違う意見を聞けば新たな気付きや学びに繋がります」と。

相手の立場に立ってコミュニケーションをとるには、「自分の考えをもつ力」「自分を表現する力」を鍛えることが必要です。自分の考えを「自分の言葉」で語っていく、こんな場をたくさん経験できるのが集団活動としての学校のよさです。11月2日(水)には、本校では「読解力向上等」の研究発表会があります。市や県内外他、多くの先生方が研究の取組を見に来てくださいます。自慢の子どもたちの学ぶ姿を見ていただきたいと思います。

### 【トピック】

先日、緑区役所での地域の幼稚園や小学校の子どもたちによる「かかしランド2022」の展示会に出かけてきました。本校からは「科学生き物クラブ」が大谷翔平選手を模した案山子を出品。大谷選手も顔負けの素晴らしい力作です。そこには、中尾のよさを表現する、子どもたちが考えた素敵な題名がついていました。

タイトル **歴史と自然の二刀流** 「なるほど。座布団一枚！」

